

「芥川賞にしばられるな」



火野葦平

清張救った葦平の助言



松本清張

「解放された」返信

北九州の記念館 手紙公開

北九州市出身の作家・松本清張（1909～92）が53年に芥川賞を受けた際、郷土の先輩作家・火野葦平（1906～60）と交わした往復書簡が18日から3月末まで、北九州市立松本清張記念館で公開される。大衆文学志向で駆け出しの清張が純文学に贈られる芥川賞に戸惑っていた様子がかげえ、「賞にしばられるな」という葦平に、清張が「気持ち救われた」と率直な胸の内を明かしている。

葦平の手紙は記念館、清張の返信は同市立文学館が所蔵。2通そろって公開するのは初めて。記念館の特別企画展「北九州市と松本清張」で展示する。

清張は、森鷗外が北九州・小倉で過ごした際の日記をめぐめる短編「或る」小倉

日記「或る」で芥川賞を受賞。葦平は38年に「糞尿譚」で同賞を受けた。これからの妙な責任が生じること恐れます」と指摘。「あなた自身の才能と方向を自由にのばして下さい。芥川賞に殺されないように」と助言した。

記念館によると、清張はこの数年前から、すでに葦平に小説の原稿を見てもらうなど交流があった。葦平は手紙の中で「直木賞なら当然と思つた」と記すなど、清張は大衆小説向きだと見抜いていたようだという。

清張の返信は便箋4枚。受賞を「全く寝耳に水」といい、「今後の困難苦勞を考えると、立っている足も萎えそう」と心境を吐露。葦平の助言に「憂悶をとりてくれた。思う通り書く——そう決ると、芥川賞という桎梏から解放された」などと感謝を記した。記念館の柳原暁子学芸員は「作家としてやっていけるか、清張本人にも未知数のところで、葦平的確で温かいアドバイスは心に響いただろう」とみている。（荻野好弘）

⑤火野葦平が松本清張に出した手紙の一部＝松本清張記念館提供 ⑥清張が書いた葦平宛ての手紙の一部

日記「或る」で芥川賞を受賞。葦平は38年に「糞尿譚」で同賞を受けた。これからの妙な責任が生じること恐れます」と指摘。「あなた自身の才能と方向を自由にのばして下さい。芥川賞に殺されないように」と助言した。

記念館によると、清張はこの数年前から、すでに葦平に小説の原稿を見てもらうなど交流があった。葦平は手紙の中で「直木賞なら当然と思つた」と記すなど、清張は大衆小説向きだと見抜いていたようだという。

清張の返信は便箋4枚。受賞を「全く寝耳に水」といい、「今後の困難苦勞を考えると、立っている足も萎えそう」と心境を吐露。葦平の助言に「憂悶をとりてくれた。思う通り書く——そう決ると、芥川賞という桎梏から解放された」などと感謝を記した。記念館の柳原暁子学芸員は「作家としてやっていけるか、清張本人にも未知数のところで、葦平的確で温かいアドバイスは心に響いただろう」とみている。（荻野好弘）

忠告 役立ったはず

松本常彦・九州大大学院教授（日本近代文学）の話 芥川賞が社会的な話題になるのは、清張の3年後に石原慎太郎が受賞して以後。清張の時はメディアの扱いもさほどではなかったが、書きたいものを書けという忠告は十分に役立った。清張がエッセーで、「僕の決心は大へん参考になった」と打ち明けた点からも確認できる。